会長	渡邊　博昭

平成27年度事業報告

平成27年度もこれまでの会務を遂行するとともに、28年度に新潟県で開催される日臨技北日本支部医学検査学会（第５回）のプレ学会として第90回新潟県臨床検査学会の運営を行った。本学会の一般演題数は43題であった。参加者数は会員362名、学生49名、計411名であった。

本年度も理事が一丸となって努力して参りましたが、至らぬ点が多々ありご迷惑をお掛けしたと思います。しかしながら無事に終えましたことは会員の皆様のご理解とご協力によるものと感謝いたします。

平成27年度の事業の概要を下記の通り報告する。

総務部

① 平成26年度から一般社団法人に移行したため、定款の確認および各種規定および手順書の見直しを行った。

② 表彰関係は昨年度通りの事業を行った。

学術部

① 第90回新潟県臨床検査学会を開催した。

② 精度管理事業は、新たに日臨技のシステムを使用して事業を行った。

③ 検査研究部門活動は活発に開催されたが、日臨技助成金の申請は16研修会の申請にとどまった。

広報部

① 会誌、ニュース、ホームページがそれぞれの役割を明確にして事業を行った。特にホームページは迅速な対応を行った。

総務部	副会長　吉原　正弘

1．通常総会の開催

平成27年５月30日（土）駅まえオフィス貸会議室７階大会議室において平成27年度第１回通常総会を開催し，平成26年度事業報告，同決算報告，監査報告の説明があり，また，平成27年度事業計画（案），収支予算（案）が提案され，特に質疑はなく拍手で承認された。

2．会務の執行体制

1）職務分担

平成27年度は新役員による会務の執行にあたり，学術部，広報部，総務部の３部門に理事を配置し，各部門との連携を図りながら会務を執行した。

2）事務局体制

技師会業務が非常に多くなっている現状で，事務局事務員の存在は要であり，事務員の努力により諸会議の準備や日臨技・北日本支部および会員との連絡・調整役を担い，又，JAMTIS 運用による会員情報登録および変更作業を迅速に処理し，組織運営上，大変重要な役割を果たしている。

3．諸会議の開催

1）理事会　第１回平成27年５月30日（駅まえオフィス貸会議室）
第２回平成27年６月13日（新潟県公社総合ビル３Ｆ会議室）
第３回平成27年９月６日（新潟県公社総合ビル３Ｆ会議室）
第４回平成27年11月15日（新潟県公社総合ビル３Ｆ会議室）
第５回平成27年12月19日（新潟県公社総合ビル３Ｆ会議室）
第６回平成28年２月20日（新潟県公社総合ビル３Ｆ会議室）

2）常任理事会

常任理事会は従来どおり隔月土曜日開催を目標に，平成27年度は５回開催した。

3）三役会議

急を要する案件には，メール等を利用し検討・協議を行い，特に三役会議は開催しなかった。

4）各種委員会の開催

⑴　会誌編集委員会

新臨技会誌（季刊発行）第295号から第298号の編集業務のため，４回開催した。

⑵　ホームページ委員会

会員への早急な情報伝達手段としてのホームページを積極的に運用，会員から親しまれるホームページをめざした。

⑶　検査研究部門委員会議

各検査研究分野の活動計画並びに運営等を協議するため２回開催した。

⑷　生涯教育研修委員会

生涯教育委員の業務も定着していることから，理事会や各支部生涯教育委員と連絡をとりながら研修会予定および参加者の登録を行った。

⑸　精度管理委員会

精度管理調査の事業計画，集計処理状況把握，検討会企画の協議のため６回開催した。

⑹　表彰委員会

各種表彰の対象者選考のため１回開催した。

4．組織対策

1）入会対策

前年度同様，各支部役員および各施設連絡責任者の協力により入会を勧めてきた。

今後は会員数の多い年代が順次定年を迎えることから，会員数の減少が懸念される。

本年度の新入会および再入会の会員は85名であった。

なお，本会の正会員総数は1,313名（平成28年３月現在）である。

また，技師連盟入会者（１月～12月の年単位）は，毎年100人に満たない状況であり，臨床検査を取り巻く環境が厳しくなる中，臨床検査技師の社会的地位向上および今後の業務拡大の為にも，更に多くの会員の入会をお願いしなければならない。

２）各支部との連携強化

各支部ともその地域性を生かした独自の活動が浸透し，年々活発化している。支部総会等に役員を派遣し，連携強化を図った。

５．地域保健医療活動および公益事業

１）新潟県臓器移植財団へ賛助会員として参画

２）糖尿病を知る集いへ佐渡支部が血糖測定で協力（６月14日）

３）父の日企画「家族で守ろうパパの健康」へ中越支部が共催団体として参画（６月21日）

４）きらきらフェスタ2015新潟市母子福祉連合会に血管年齢測定で協力（６月27日）

５）中越沖地震エコノミークラス症候群フォーローアップ検診に協力（小千谷市７月18・19日）

６）すこやかともしびまつりへ中越支部が共催団体として参画（９月19・20日）

７）糖尿病を知るつどいへ中越支部が共催団体として参画（10月３日）

８）ピンクリボンホリデー2015へ新潟県臨床検査技師会として参画（10月18日）

９）第18回新潟市健康福祉まつりへ新潟支部が共催団体として参画（10月18日）

10）中越地震エコノミークラス症候群フォーローアップ検診に協力（小千谷市10月31日，11月１日）

11）世界糖尿病デーin 長岡2015へ中越支部として参画（11月14日）

12）糖尿病を知る集いへ佐渡支部が血糖測定で協力（11月15日）

13）中越地震エコノミークラス症候群フォーローアップ検診に協力（十日町市11月22日）

14）新潟市民を対象にした検査と健康展を開催（11月28日）

６．求人情報

日臨技への情報登録とともに，会員へは新臨技ニュースやホームページ等で求人情報を提供した。

７．災害関係

災害時の支援活動や会員の安否確認に威力を発揮できるものと確信している災害支援ネットワークの登録者は67名（平成28年３月現在）の微増であり、多くの会員の賛同と登録をお願いしたい。

８．表彰関係（敬称略）

１）第33回篠川至賞（篠川至賞選考委員会を経て平成27年５月30日通常総会にて表彰）

学術部門	稲波　浩	（新潟支部）
学術部門	高頭秀吉	（中越支部）

２）平成27年度功労者表彰（平成27年５月30日通常総会にて表彰）

永年会員功労者表彰	該当者29名	
特別功労者表彰	吉原正弘	（中越支部）

３）平成27年度生涯教育履修表彰（平成27年５月30日通常総会にて表彰）

奨励賞	桑原喜久男	（済生会三条病院）	420点
	坂西　清	（厚生連新潟医療センター）	410点
	近藤善仁	（厚生連長岡中央綜合病院）	410点
	長谷川秀浩	（厚生連新潟医療センター）	370点
新人賞	渡邊愛深	（長岡赤十字病院）	310点

平成27年度活動報告

第90回新潟県臨床検査学会、検査研究部門活動、精度管理事業、生涯教育を大きな柱として１年間活動を行った。

１．学会

平成27年10月12日に朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにおいて、第90回新潟県臨床検査学会を開催した。学会テーマは、「進化」～新しい臨床検査技師像を探る～として、一般演題43題が寄せらた。今回より設けた学生発表のセクションには、新潟大学、新潟医療福祉大学、北里大学保健衛生学院の学生から合計５演題が寄せられ、参加者数は会員362名、学生49名、計411名であった。ランチョンセミナーは５社から協力を頂き、それぞれの分野で関心の高い話題を提供していただいた。今回、平成28年度日臨技北日本支部学会のプレ学会の意味合いを持ち、運営にあたっては幾つかの改善点を見いだせた。また、多くの会員から一般演題を頂戴して感謝申し上げる。県学会での一般演題は普段の業務の中から研究活動を行った事を発表する場として、また、若手技師の学会発表の手順、プレゼン方法を学ぶ場として活用いただければと考え、会員各位に於かれては平成28年度以降も多くの演題を頂けるようにお願いしたい。

２．検査研究部門　　池亀　央嗣

平成27年度は、検査研究部門の組織再編が行われた最初の年度であった。昨年度までは、６部門、13分野の構成で運営されてきたが、平成27年度から９部門３分野（生物化学分析部門、臨床一般部門、臨床血液部門、臨床微生物部門、輸血細胞治療部門、病理細胞部門、染色体・遺伝子部門、臨床生理部門、臨床検査総合部門の９部門であり、臨床生理部門は、神経生理分野、循環生理・呼吸生理分野、超音波分野の３分野から成る）に再編された。このうち、生物化学分析部門は、旧臨床化学分野と旧免疫血清分野が、病理細胞部門は、旧病理分野と旧細胞分野が、臨床検査総合部門は、旧疫学・公衆衛生分野と旧管理運営分野がそれぞれ統合された。旧生体機能分野は、神経生理分野と循環生理・呼吸生理分野に分割された。その他の部門は、概ね旧分野からそのままの移行となった。部門構成人員も各部門６名、分野は４名となった。また、活動費もこれまでの各分野８万円から、各部門12万円・各分野８万円に変更された。

検査研究部門が開催した研修会は、合計19回開催され、（昨年度22回）、参加人数は会員930名（昨年度689名）、非会員102名（昨年度95名）、学生１名で合計1,033名（昨年度791名）であった。前年度の研修会は22回であり、研修会数としては昨年度を下回ったが、全ての部門・分野で開催することができた。昨年度の参加者は、791名であり、今年度は1,033名であった。参加者数としては、前年度比で242名の増加となった。

特に臨床生理部門では、２日間に渡る研修会や実技研修を積極的に開催し、５回開催された研修会で参加人数は424名と非常に多くの参加を得た。

臨床一般部門、臨床血液部門、輸血細胞治療部門、染色体・遺伝子部門も実技実習を積極的に取り入れ、研修レベルを初心者・中堅者別など、細部まで行き届いた形式を設けた。他団体や他学会との共催も多く、他職種と合同での研修会も開催された。

実習形式の導入や他団体との合同企画、積極的なアイデアなどがあり、昨年度に開催した第63回医学検査学会やスキルアップ研修会の経験を生かした研修会を企画することができた。平成28年度は、第５回日臨技北日本支部医学検査学会が新潟で開催される。各部門が総力しての学会の成功と多くの会員の積極的な参加を期待したい。

平成27年度　検査研究部門の研修会

部門	開催日	生涯教育点数	参加人数		研修会内容
			会員	非会員	
生物化学分析	平成27年 11月24日（土）	専門 20	29	11	【生物試料分析科学会甲信越支部新潟分科会第12回研修会， 新潟県臨床検査技師会生物化学分析部門合同研修会】 １．腫瘍マーカー異常高値の考え方 ～腫瘍マーカー検査、特に糖鎖抗原 CA19-9 は様々な原因で異常高値となります。異常高値の考え方をお話ししましょう～ シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社 CAI 事業部 荻原　貴裕　先生 ２．腫瘍マーカー検査室の悩み事 新潟県立がんセンター検査部　安達　洋子　先生 ３．オーダーメイド医療に関わる遺伝子関連検査 ～がん関連遺伝子検査～ （株）エスアールエル検査技術企画部技術開発部検査開発課 中條　聖子　先生 ４．糖鎖技術が導く新たな臨床検査 シスメックス株式会社 IC-PE 商品開発グループ　松崎　英樹　先生 会場：新潟大学医歯学総合病院
	平成28年 ２月13日（土）	専門 20	43	10	【第46回日本臨床化学会甲信越支部新潟分科会 新潟県臨床検査技師会生物化学分析部門合同研修会】 １．血液疾患データの読み方 新潟県立がんセンター検査部　市川　和美　先生 ２．症例検討 新潟県立がんセンター内科・内科部長　石黒　卓朗　先生 会場：新潟大学医歯学総合病院
臨床一般	平成27年 ６月28日（日）	専門 20	49	6	【平成27年度　第１回新臨技臨床一般部門研修会】 １．平成26年度新臨技精度管理調査フォトサーベイ結果と解説 済生会新潟第二病院　小野　篤史　技師 ２．尿中 L-FABP について 積水メディカル株式会社検査事業部営業部カスタマーサポートセンター 学術グループ　須長　宏行　先生 ３．もう一度学ぼう！尿沈渣！ ①尿中赤血球形態を再確認！ ②大食細胞と卵円形脂肪体を学ぶ！ 東京大学医学部附属病院　宿谷　賢一　先生 会場：新潟大学医歯学総合病院
	平成27年 11月３日（火）	専門20	17	2	【平成27年度　第２回新臨技臨床一般部門研修会実技研修会】 １．尿沈渣検査における血球類の鑑別ポイント（講義） 済生会新潟第二病院　小野　篤史　技師 ２．尿沈渣検査における上皮細胞類の鑑別ポイント（講義） 新潟大学医歯学総合病院　齋藤　温　技師 ３．尿沈渣検査における円柱類の鑑別ポイント（講義） 済生会新潟第二病院　西江　良介　技師 ４．鏡検実習（基礎的成分を中心に） 会場：新潟医療技術専門学校
臨床血液	平成27年 ９月５日（土）	専門 20	25	1	【第１回臨床血液部門　実技研修会】 血液像観察のポイント説明と鏡検実習 （初心者を対象に幼弱細胞の見方などを指導する。） 会場：新潟医療技術専門学校
	平成27年 10月10日（土）	専門 20	26	2	【第２回臨床血液部門　実技研修会】 第１回と同様の内容 会場：新潟医療技術専門学校
	平成28年 １月16日（土）	専門 20	59	4	【臨床血液部門研修会】 １．『凝固検査結果に影響する様々な要因について －検体の取り扱いの重要性－』 積水メディカル（株）検査事業部営業部 カスタマーサポートセンター学術グループ　市原　文雄　先生 ２．『基礎から見直そう血液形態検査 －標本上からみえるものを増やすために－』 NTT 東日本関東病院臨床検査部　後藤　文彦　先生 会場：新潟大学医学部
臨床微生物	平成27年 12月５日（土）	専門20	63	3	【平成27年度　臨床微生物部門研修会】 『学ぼう！呼吸器感染症～検査から感染症診療まで～』 １．教育講演 「呼吸器感染症～喀痰検査～」 燕労災病院中央検査部主任　樋口　元弥　先生 ２．特別講演 「肺炎診療のＡＢＣ」 新潟県立中央病院内科部長　太田　求磨　先生 会場：新潟大学医歯学総合病院

輸血細胞治療	平成27年 7月26日（日）	専門20	25	0	【平成27年度　輸血細胞治療部門輸血検査実技講習会】 Aコース＜基礎コース＞ Bコース＜認定および技能維持コース＞ 講演：認定受験について 県立がんセンター新潟病院　小林　健太　技師 会場：新潟大学医歯学総合病院
	平成28年 2月13日（土）	専門20	58	4	【輸血細胞治療部門研修会】 1．研修会参加報告「緊急時の輸血および大量輸血療法に関する講習会」 報告者：魚沼基幹病院　柴田真由美 新潟労災病院　山崎　健 県立新発田病院　高橋　一哲 2．認定受験取得記 新潟県立新発田病院　菅原　陽子　技師 3．「直接抗グロブリン試験陽性の意義と対応」 バイオ・ラッドラボラトリーズ株式会社 カスタマーサポート部　柿沼　幸利　先生 会場：新潟大学医歯学総合病院
病理細胞	平成27年 7月4日（土）	専門20	30	5（1）	【第37回病理技術研究会（病理細胞部門研修会と共催）】 認定病理検査技師の認定試験を受験して 信楽園病院　土田　尚子　技師 北日本支部病理部門研修会（福島）の報告 新潟大学脳研究所　丹田智恵子　技師 3．HE染色について 1）HE染色アンケート集計結果報告 新潟大学医学部標本センター　大谷内健二　技師 2）ヘマトキシリンの検討（各施設のヘマトキシリンの作成・染色性） 済生会新潟第二病院　遠藤　浩之　技師 3）エオジン検討（エオジンの粉末の違いによる染色性） 新潟大学医学部標本センター　大谷内健二　技師 4）トラブルシューティングと染色サーベイ 新潟医療センター　長谷川秀浩　技師 5）病理医の組織診断の過程とHE染色 新潟大学医学部保健学科教授　岩渕　三哉　先生 6）鏡検＆フリーディスカッション 会場：新潟大学医学部保健学科 ＊新潟支部　新潟病理技術研究会と共催
	平成27年 10月31日（土）	専門20	53	7	【病理細胞部門研会】 1．教育講演 「病理／細胞診日常業務と遺伝子検査 －検査しない技師も知っておいた方がいいこと－」 長岡赤十字病院病理診断部部長　薄田　浩幸　先生 2．技術講演 「病理組織検体、細胞診検体からの遺伝子検索」 愛知県がんセンター中央病院臨床検査部　遺伝子病理検査科 主任専門員　柴田　典子　先生 会場：新潟医療人育成センター 共催：新潟県細胞検査士会、新臨技新潟支部
染色体・遺伝子	平成27年 9月12日－13日	専門30	25	3	【平成27年度日臨技北日本支部遺伝子部門研修会】 （共催新潟県臨床検査技師会遺伝子部門研修会） 9月12日（土）講演会 1．技術講演-1 座長新潟県立がんセンター新潟病院　神田　真志　氏 「LNA技術を用いた高感度microRNA検出法とその解析法について」 タカラバイオ（株）　井上　晃一　先生 2．教育講演 座長　新潟市民病院　清野　俊秀　氏 「体液診断による革新的がんの診療と治療」 国立がん研究センター研究所分子細胞治療研究分野 落谷　孝広　先生 3．技術講演-2 座長　新潟大学医歯学総合病院　佐藤　未来　氏 「MajorBCR-ABLmRNA測定キット「オーツカ」の 臨床的意義と測定技術について」 大塚製薬（株）　山本　剛士　先生、古賀　大輔　先生 9月13日（日）実技講習 座長長岡赤十字病院　高頭　秀吉　氏 「定量リアルタイムPCR法：絶対定量と相対定量について」 タカラバイオ（株）　西脇　一恵　先生 会場：新潟大学医学部 ＊北日本支部遺伝子部門と共催

臨床生理	平成27年 6月28日（日）	専門 20	88	3	【生理検査基礎セミナー】 第1部　BasicLifeSupport:BLS 実技指導 　胸骨圧迫、人工呼吸、AED 操作の実技指導を受けられます。 講師：新潟市消防本部 第2部 　講演1「心電図判読に役立つ基礎知識」 新潟大学医学部保健学科　齋藤　修　先生 　講演2「呼吸機能検査の基礎（楽しく検査するためのポイント）」 新潟大学医歯学総合病院　加藤　靖彦　先生 　講演3「生化学データを読み解くための初級編」 新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院　坂西　清　先生 会場：新潟医療人育成センター
	平成27年 8月29日（土） －30日（日）	専門30	120	9	【超音波検査セミナー2015】 『臨床医は超音波検査に何を求めているか～それは撮り忘れないで～』 ［1］第1会場：心臓・血管 8月29日（土） 1.「超音波の基礎　～超音波の特性を学ぶ～」 GE ヘルスケア・ジャパン　山本　幸弘　先生 2. Live・Demo 　計測精度向上の取り組み～伝授：群馬県立心臓血管センターの極意～ 群馬県立心臓血管センター　戸出　浩之　先生、岡庭　裕貴　先生 3.「急性心不全」 済生会三条病院　桑原喜久男　先生 4.「右心機能評価、肺高血圧評価」 群馬県立心臓血管センター　戸出　浩之　先生 5.「超音波を用いた大血管の評価方法」 東邦大学医療センター大森病院　八鍬　恒芳　先生 8月30日（日） 6.「下肢静脈瘤の検査方法」 東邦大学医療センター大森病院　八鍬　恒芳　先生 7.「心筋症」 群馬県立心臓血管センター　岡庭　裕貴　先生 8.「症例検討、Q＆A」 コメンテーター：講師 ［2］第2会場：腹部・体表 8月29日（土） 1. 超音波実技セミナー 　腹部、心臓、頸動脈　各コース　10名 　新潟県臨床検査技師会臨床生理部門員 2.「小児エコーのポイント」 国立病院機構埼玉病院　岩下　浄明　先生 3.「症例から学ぶ消化管エコー大人と小人」 国立病院機東京医療センター　武山　茂　先生 4.「症例から学ぶ超音波検査」 群馬県立小児医療センター　竹内　浩司　先生 8月30日（日） 5.「甲状腺エコー」 国立病院機構東京医療センター　武山　茂　先生 6.「肝・胆・膵腫瘍の分類～カテゴリーを考慮した～」 群馬県立小児医療センター　竹内浩司　先生 7. 症例検討、Q＆A」 コメンテーター：講師 会場：燕三条地場産業振興センターリサーチ
	平成27年 11月15日（日）	専門20	18	8	【平成27年度　超音波検査士対策セミナー】 「超音波検査士対策：超音波検査に必要な物理学的基礎知識 東芝メディカルシステムズ営業本部超音波営業部 営業技術担当　浜田　聡明　先生 会場：新潟大学医歯学総合病院
	平成27年 12月26日（土）	専門20	57	0	【神経生理検査セミナー2015】 1. 講演「聴性感覚誘発電位」「体性感覚誘発電位」 市川市リハビリテーション病院　高橋　修　先生 2. ライブデモ「体性感覚誘発電位：SEP のデモンストレーション」 市川市リハビリテーション病院　高橋　修　先生 会場：新潟大学医歯学総合病院
	平成28年 2月28日（日）	専門20	107	14	【平成27年度新潟支部生理研究班・新潟県臨床生理部門共催研修会】 1. 講演①「心電図所見に対する心エコ - 検査の評価ポイント」 新潟大学医歯学総合病院検査部　小林　紘子　技師 2. 講演②「心電図検査の医・路・波 - 検査の進め方から精度管理まで -」 帝京大学医学部附属病院中央検査部　富原　健　技師 3. 講演③「心電図を観る - 波形の成り立ち・自動診断のピットホール -」 新潟大学医学部保健学科　教授　池主　雅臣　先生 会場：新潟大学医学部
臨床検査総合	平成27年 12月12日（土）	専門20	38	10	【平成27年度臨床検査総合部門（公衆衛生）研修会】 1.「サルモネラ標準試験法と各種培地について」 日水製薬株式会社診断薬マーケティング営業部 ＣＲＭチーム　庭野清司　先生 2.「侵襲性肺炎球菌感染症について 　～血清型別法と血清型分布調査の意義について～」 国立感染症研究所細菌第一部　主任研究官　常彬　先生 会場：コープシティ花園「ガレッソ」

３．精度管理事業　　坂西　清

今年度も新潟県臨床検査技師会として第36回平成27年度新潟県臨床検査精度管理調査会を行った。この事業は新潟県から新潟県医師会への委託事業である。技師会としても積極的に当事業に協力し，集計，解析を含めた実務の中心的役割を果たすと共に，臨床検査の精度向上に努めた。

本事業を担当する精度管理委員会は全体会議と臨床化学担当の分科会を含め計６回開催し，実施計画及び配送準備，データ集計，解析を実施した。

本年度も感染症実施項目は微生物検査に技師会が担当する一般菌の１菌種について感受性を実施し，新潟県保健環境科学研究所が担当する２菌種の同定を合わせて実施した。臨床化学は昨年同様27項目で実施した。調査試料は今年度低濃度域に自家製人プール血清を用い，高濃度域には昨年同様市販管理試料を用いた。評価基準は昨年と同様に目標値からのBIASの許容限界とし、日本臨床化学会クオリティマネジメント専門委員会が設定した「生理的変動に基づいた臨床化学検査36項目における測定の許容限界」を一部変更して用いた。本年度も試料11にヒトプール血清を使用しており、そのためクレアチニンにおいて低濃度となったため暫定的に評価基準を２倍の目標値±10％とした。カルシウムも従来と比べて目標値が低濃度となったため、暫定的に±８％とした。LD（LDH）はばらつきが確認されたため、暫定的に２倍の±８％とした。

評価はBIASの許容限界内をA、許容限界の２倍以内をB、３倍以内をC、３倍を超える場合をDとした。なお、尿素窒素のアンモニア消去（回避）法以外の測定方法、測定方法未記入等は目標値の設定が不可能であるため評価対象外とした。

また、集計に用いた精度管理用システム（JAMTQC）は５施設以下の集団の統計処理、および目標値の設定が不可能であるため、方法別および試薬別に目標値を設定した項目で５施設以下の場合は評価を「施設別報告書」に反映させせさせることが不可能となり、「対象外」の表記になる事から目標値を参考に自施設の正確度の判断をお願いした。なお，ドライケミストリー法についても評価を行った。また、今年度は、HbA１cの調査に低値・高値の２濃度とも市販の管理試料を利用した。結果として報告値で反応性による測定法差、メーカー差がでてきており、測定試料と各メーカーの測定法で格差が出てきている事から、次年度は委員会にて熟慮したうえで、今後の方向性を決めていくこととしたい。

集計作業の迅速化，誤登録防止を目的に今年度より、日本臨床衛生検査技師会の精度管理システムを使用してのWeb報告を実施し、特に問題なく報告作業は行われたが、まだ不備がある事から、日臨技との連携を密にして改善できることは改善していきたい。

精度管理調査事業の内容（実施要項）は以下のとおりである。

１．試料の到着　　臨床化学は平成27年10月26日（月）に到着予定です。

２．測　定　日　　サンプル到着後、可能な範囲で速やかに実施してください。

３．測定項目

１）臨床化学　　※生化学試料：冷凍試料　　・　HbA１c試料：冷蔵試料

ブドウ糖・中性脂肪・総コレステロール・HDLコレステロール・LDLコレステロール・ナトリウム（Na）・カリウム（K）・クロール（CL）・カルシウム・無機リン・尿素窒素・クレアチニン・尿酸・総蛋白・アルブミン・血清鉄・C反応性蛋白（CRP）・総ビリルビン・AST（GOT）・ALT（GPT）・アルカリフォスファターゼ（ALP）・γ-GT（γ-GTP）・LD（LDH）・CK・アミラーゼ・コリンエステラーゼ（CHE）・HbA１c・Mgの28項目。

ドライケミストリー法は本年度も無機リン、総ビリルビンを実施しますが、参加は選択可能とします。また、LDLコレステロールは実施しません。

血液　　※血液試料：冷蔵試料

ＣＢＣ５項目（ヘモグロビン・血小板数・白血球数・赤血球数・ヘマトクリット）

血液画像サーベイ（アンケート１～５問、参考調査設問　１～16問）

４．測定方法

各施設で使用している試薬、機器を用いて測定してください。

測定回数は各施設にお任せ致しますが施設の代表としての測定値をご報告ください。

５．サンプル及び取り扱い

１）　臨床化学

※ドライケミストリー法は専用のサンプル（DRY Ⅰ、DRY Ⅱ）を測定してください。

サンプル	測定項目	取扱い上の注意
11	ブドウ糖・中性脂肪・総コレステロール・HDL コレステロール・LDL コレステロール・ナトリウム（Na）・カリウム（K）・クロール（CL）・カルシウム・無機リン・尿素窒素・クレアチニン・尿酸・総蛋白・アルブミン・血清鉄・C 反応性蛋白（CRP）・総ビリルビン・AST（GOT）・ALT（GPT）・アルカリフォスファターゼ（ALP）・γ-GT（γ-GTP）・LD（LDH）・CK・アミラーゼ・コリンエステラーゼ（CHE）・Mg（参考調査）	ヒト血清です。サンプル到着後は -40℃以下に凍結保存してください。不可能な場合、できるだけ速やかに測定してください。測定時は流水中で融解してください。また、感染性の確認はしてありません。取り扱いには十分注意してください。
12		ヒト血清由来凍結品です。サンプル到着後は -40℃以下に凍結保存してください。不可能な場合、できるだけ速やかに測定してください。測定時は流水中で融解してください。また、感染性の安全はできる範囲で確認済みですが、取り扱いには十分注意してください。
13（DRY Ⅰ） 14（DRY Ⅱ） ※ドライケミストリー法専用	ブドウ糖・中性脂肪・総コレステロール・HDL コレステロール・ナトリウム（Na）・カリウム（K）・クロール（CL）・カルシウム・無機リン・尿素窒素・クレアチニン・尿酸・総蛋白・アルブミン・血清鉄・C 反応性蛋白（CRP）・総ビリルビン・AST（GOT）・ALT（GPT）・アルカリフォスファターゼ（ALP）・γ-GT（γ-GTP）・LD（LDH）・CK・アミラーゼ・コリンエステラーゼ（CHE）	ヒト血清です。サンプル到着後は -40℃以下に凍結保存してください。不可能な場合、できるだけ速やかに測定してください。測定時は流水中で融解してください。また、感染性の確認はしてありません。取り扱いには十分注意してください。
17・18	HbA１c	市販コントロールです。通常の検体と同様にして各種測定法での希釈方法にて希釈していただき、希釈測定をお願いいたします。感染性の安全はできる範囲で確認済みですが、取り扱いには十分注意してください。また、サンプル到着後は冷蔵保存し、できるだけ速やかに測定してください

２）　血液

サンプル	測定項目	取扱い上の注意
41	ヘモグロビン 血小板数 白血球数 赤血球数 ヘマトクリット	市販管理血球です。サンプル到着後は冷蔵保存してください。（凍結厳禁） 感染性の完全な否定はできませんので、取り扱いには十分注意してください。 ［装置の測定条件］ ⑴ マニュアルとクローズドの測定モードがある場合、マニュアルモードで測定してください。 ⑵ 患者検体を測定するモードで測定してください。 ⑶ CBC のみ（白血球分画等なし）のモードで測定をお願いします。CBC のみにできない機種はそのまま測定してください。なお、赤芽球等を白血球から除外する機能を有する機種の場合、除外前の白血球数で報告してください。 ⑷ ヘモグロビン測定において、シアンを用いるか用いないかの方法選択ができる機種については、通常業務で用いている方法で行ってください。 ［試料の準備と測定］ 室温に15分間静置後、静かに転倒混和ときりもみを繰り返し行い、充分に混和してください。 （　激しく振ることは絶対に避けてください） よく混和された状態で、直ちに測定してください。 報告値については、「測定機種に依存する注意事項について」を参照してください。
血液画像サーベイ	（アンケート１～５、参考調査設問１～16）	各設問、アンケートの回答方法に従ってください。、（選択肢番号、または、フリー入力）

６．成績報告締切：平成27年11月２日（火）

７．報告（臨床化学・血液）

日臨技システムでの報告となります。日本臨床衛生検査技師会の HP より JAMT　QC に入っていただき、参加登録、試料到着の登録を実施後、システムにて報告をお願いいたします。

８．参加費　　昨年までと同様に無料です。

９．目標値と評価基準について

１）　臨床化学

ブドウ糖、中性脂肪、総コレステロール、HDL コレステロール、LDL コレステロール、ナトリウム（Na）、カリウム（K）、クロール（CL）、カルシウム、クレアチニン、尿素窒素、尿酸、AST（GOT）、ALT（GPT）、

アルカリフォスファターゼ（ALP）、γ-GT（γ-GTP）、LD（LDH）、CK、アミラーゼ、コリンエステラーゼ（CHE）は次頁の表の標準物質及び測定方法で目標値を設定し、その評価基準に添って全てのサンプルについて評価を行ないます。ＨＤＬコレステロール、LDL コレステロールは測定試薬別に評価を行ないます。ドライケミストリー法は昨年同様専用の基準（平成17年度および18年度新潟県臨床検査精度管理調査報告書参照）を用いて評価をおこないます。本年度もメーカーの協力で参考値を公表致します。評価基準は「生理的変動に基づいた臨床化学検査36項目における測定の許容誤差限界（日本臨床化学会クオリティマネジメント専門委員会）」を基に一部修正し設定しました。反応性等に問題が確認された場合、変更する場合があります。

無機リン、総蛋白、アルブミン、血清鉄、C 反応性蛋白（CRP）、総ビリルビン、Mg は評価せず、単純集計のみを実施します。

臨床化学目標値設定方法と評価基準（ドライケミストリー法以外）

項目	単位	標準物質	測定方法	評価基準
ブドウ糖	mg/dL	ReCCS（旧 HECTEF SR センター）標準品	ヘキソキナーゼ法、電極法	目標値±３％
中性脂肪	mg/dL		酵素法（FG 消去）	目標値±５％
総コレステロール	mg/dL		酵素法	目標値±５％
HDL コレステロール	mg/dL		各社直接法	目標値±５％
LDL コレステロール	mg/dL		各社直接法	目標値±10%
尿素窒素	mg/dL		アンモニア消去法	目標値±５％
クレアチニン	mg/dL		酵素法	目標値±５％
尿酸	mg/dL		ウリカーゼ･POD 法	目標値±５％
ナトリウム（Na）	mEq/L		電極法	目標値±２mEq/L
カリウム（K）	mEq/L		電極法	目標値±０．２mEq/L
クロール（CL）	mEq/L		電極法	目標値±２mEq/L
カルシウム	mg/dL		各種測定方法	目標値±５％
AST（GOT）	U/L	JCCLSCRM-001	JSCC（JCCLS）自動化法	目標値±５％
ALT（GPT）	U/L		JSCC（JCCLS）自動化法	目標値±５％
アルカリフォスファターゼ（ALP）	U/L		JSCC（JCCLS）自動化法	目標値±５％
γ-GTP	U/L		JSCC（JCCLS）自動化法	目標値±５％
LDH	U/L		JSCC（JCCLS）自動化法	目標値±４％
クレアチニンキナーゼ（CK）	U/L		JSCC（JCCLS）自動化法	目標値±５％
アミラーゼ（AMY）	U/L		JSCC（JCCLS）自動化法	目標値±５％
コリンエステラーゼ（CHE）	U/L	JCCLSCRM-002	JSCC（JCCLS）自動化法	目標値±５％
HbA１c	%	メーカー指定標準物質	HPLC 法	目標値±０．２％（A１c）
マグネシウム（Mg）	mg/dL	ReCCS 標準品	各種測定方法	評価せず

臨床化学目標値設定方法と評価基準（ドライケミストリー法）

項目	単位	標準物質	測定方法	評価基準
ブドウ糖	mg/dL	ReCCS（旧 HECTEF SR センター）標準品	ヘキソキナーゼ法、電極法	目標値±５％
中性脂肪	mg/dL		酵素法（FG 消去）	目標値±９％
総コレステロール	mg/dL		酵素法	目標値±９％
ＨＤＬコレステロール	mg/dL		各社直接法	目標値±９％
尿素窒素	mg/dL		アンモニア消去法	目標値±８％
クレアチニン	mg/dL		酵素法	目標値±８％
尿酸	mg/dL		ウリカーゼ･POD 法	目標値±８％
ナトリウム（Na）	mEq/L		電極法	目標値±３mEq/L
カリウム（K）	mEq/L		電極法	目標値±０．３mEq/L
クロール（CL）	mEq/L		電極法	目標値±３mEq/L
カルシウム	mg/dL		各種測定方法	目標値±８％

AST（GOT）	U/L	JCCLSCRM-001	JSCC（JCCLS）自動化法	目標値±13%
ALT（GPT）	U/L		JSCC（JCCLS）自動化法	目標値±13%
アルカリフォスファターゼ（ALP）	U/L		JSCC（JCCLS）自動化法	目標値±13%
γ-GTP	U/L		JSCC（JCCLS）自動化法	目標値±13%
LDH	U/L		JSCC（JCCLS）自動化法	目標値±13%
クレアチニンキナーゼ（CK）	U/L		JSCC（JCCLS）自動化法	目標値±13%
アミラーゼ（AMY）	U/L		IFCC（JCCLS）自動化法	目標値±13%
コリンエステラーゼ（CHE）	U/L	JCCLSCRM-002	JSCC（JCCLS）自動化法	目標値±13%

２）　血液

ヘモグロビン・血小板数・白血球数・赤血球数について、各メーカー製キャリブレーターにより校正が行われた装置で、測定の協力が得られた機種について、その値を目標値に設定し、機種別に評価基準に添って該当機種のサンプルについて評価を行ないます。

ヘモグロビン・白血球数・赤血球数について、評価基準は臨床的許容限界 JCCLS,1994を基に設定しました。

血小板数については、試料の目標値が基準値下限付近であることから、他県の精度管理の状況を参考に設定しました。

ヘマトクリットは評価せず、単純集計のみ実施します。

血液検査　評価基準

項目	単位	目標値設定装置	評価基準
ヘモグロビン	g/dL	ICSH　CLSI　の推奨する国際標準法にトレーサビリティが確保された各メーカーキャリブレーターにより校正された装置	目標値±３．６％
血小板数	$\times 10^9$/L		目標値±10．０％
白血球数	$\times 10^9$/L		目標値±５．６％
赤血球数	$\times 10^{12}$/L		目標値±４．１％

３）一般フォトサーベイ

４．生涯教育　　近藤　善仁

各検査研究班・各支部担当者にご尽力いただき、行事登録および参加者登録を行ってもらった。日臨技より支給される「生涯教育推進研修会助成金」の交付額は、計16研修会・計677,000円を受け取ることができた。また、本年度より日臨技情報総合システム（JAMTIS）が新システムとなり、手探りで慣れていくような状態であったが、滞りなく事業を完遂することができた。関係者の皆様には重ねて御礼申し上げたい。

広報部　　副会長　坂西　　清

新臨技会誌，新臨技ニュースおよび新臨技ホームページの運営を通じて全会員にリアルタイムに情報の提供が出来るよう心がけてきた。また会員への情報発信手段として安定した運営を目指し活動を行ってきた。新臨技ニュースは，理事会議事要旨，研修会案内および求人情報など新臨技の新しい情報をいち早く会員施設へ提供できた。また昨年作成したホームページ運営規約である一般社団法人　新潟県臨床検査技師会広告掲載内規をもとに、規律ある運営に努めて来た。

また、ホームページを利用した災害時支援メーリングリストの広報などに努めてきた。

1）新臨技会誌　　齋藤　功英

〔講義・研究〕の内容は基礎的内容を主に力を入れてきた。〔研修会報告〕は参加会員の協力得て研修会をより身近に感じ情報提供や新人会員の研鑽の頁とした。〔ペンリレー〕〔新入会員紹介〕〔検査技師として～私の思い出～奮闘記〕などの掲載で，会員相互の親睦をはかり，誰でも参加できる企画にした。また〔公益活動報告〕を掲載することにより臨床検査技師の啓蒙活動と，多くの会員に参加していたけるような情報ツールとした。〔施設紹介〕では新旧問わず，検査室を紹介し施設情報の共有を図った。年４回　季刊発行（295号から298号まで）

＜平成27年度会誌掲載内容＞

295号　平成27年４月１日

〔講義〕　抗酸菌の細菌学的検査法について　渡辺　　靖

ループスアンチコアグラントの歩み　恩田　宏夫

〔研修会参加報告〕

超音波検査士対策セミナー2015に参加して　土田加代子

輸血・移植分野　輸血研修会に参加して　藤原　誠得

輸血・移植分野ＤＶＤ上映会に参加して　菅原　陽子

感染制御部門疫学・公衆衛生分野研修会に参加して　青木　順子

形態検査部門血液分野研修会に参加して　松田　将門

臨床検査セミナーに参加して　池上喜久夫

佐渡支部研修会に参加して　遠藤　恭平

神経生理検査セミナーに参加して　丸山　大節

生物化学分析部門免疫血清分野研修会に参加して　伊藤　　晋

第37回新潟支部一般検査研究班合同研修会に参加して　土田　純也

〔弔辞〕　高澤氏を偲んで　小林　元康

中村氏を偲んで　山崎　正雄

〔施設紹介〕富永草野病院　西江　聡子

〔ペンリレー〕　栗山　美香

〔検査技師として～私の奮闘記～〕　佐藤　幸輝

野村ますみ

〔会報〕

平成27年度第通常総会議案書

平成26年度第４回＿理事会議事録

平成26年度第５回＿理事会議事録

平成26年度第６回＿理事会議事録

平成26年度第２月常任理事会議事録

平成26年度第11月常任理事会議事録
新入会員紹介
会員消息
技師会日誌
〔行事予定〕
296号　平成27年７月１日
〔あいさつ〕 会長就任あいさつ　渡邊　博昭
〔講義〕 甲状腺検査の話題　吉岡　　幸
Secondstage　ループスアンチコアグラントの歩み　恩田　宏夫
〔研究〕 脱脂処理を組み込んだ密閉式自動固定包埋装置による検体処理法の検討
林　真也
〔施設紹介〕　下越総合健康開発センター　井本　剛史
〔受賞者のことば〕
篠川至賞を受賞して　稲波　　浩
篠川至賞を受賞して　高頭　秀吉
生涯教育新人賞を受賞して　渡邊　愛深

〔案内〕　第90回新潟県臨床検査学会案内
〔認定技師精度紹介〕 一般検査士認定試験を受検して　河野　良平
〔研修会参加報告〕
生物化学分析部門遺伝子・染色体分野研修会の参加報告　中村　岳史
形態検査部門病理検査分野研修会に参加して　坂下　千明
上越支部研修会に参加して　岡田はるな
下越支部研修会に参加して　鈴木　　明
佐渡支部研修会に参加して　木村真樹子
新潟支部研修会に参加して　阿部　千帆
相談ができる臨床検査技師育成講習会に参加して　高橋　政江
〔アンケート結果〕
成26年度検査説明相談ができる臨床検査技師育成講習会アンケート結果
桑原喜久夫
〔ペンリレー〕 渡辺　智佳
〔検査技師として～私の奮闘記～〕
高澤　駿太
竹内　孝美
小熊　　望
神林　泰浩
〔会報〕
平成26年度　第７回理事会議事録
平成27年度　第４月常任理事会議事録
26年度　監査報告書
平成26年度第１回通常総会からアンケート回答
新入会員紹介

会員消息
新臨技会日誌
〔行事予定
297号　平成27年10月１日
〔講義〕 Helicobacterpylori 感染の現状　－感染診断・除菌治療と最新知見について－
阿部　雅仁
〔案内〕 第90回新潟県臨床検査学会
〔研究〕 第88回新潟県臨床検査学会抄録
〔おしらせ〕 平成28年度北日本支部医学検査学会（第５回）メインテーマ募集のお知らせ

〔公益活動参加報告〕 父の日企画　家族で守ろうパパの健康チェックに参加して
江口　香澄
〔研修会参加報告〕 輸血検査実技講習会に参加して　渡邉　桃子
生理検査基礎セミナーに参加して　深谷　幸子
第１回新臨技臨床一般部門研修会に参加し　齋藤　直子
第37回病理技術研究会に参加して　石塚　浩章
東日本大震災における「生活不活発病（エコノミークラス症候群）予防検診」に参加して
宮澤　晴美
〔施設紹介〕 魚沼基幹病院　小池　敦
〔ペンリレー〕 田辺　恵梨
〔検査技師として～私の奮闘記～〕 細谷　大
矢澤　景子
澤渡　哲也
〔会報〕
平成27年度　第１回理事会議事録
平成27年度　第２回理事会議事録
平成27年度７月常任理事会議事録
新入会員紹介
会員消息
新臨技会日誌
〔行事予定〕
298号　平成28年１月１日
〔あいさつ〕 年頭のご挨拶　渡辺　博昭
〔講義〕 検体検査装置における流れ学へご招待　新山　時弘
睡眠時無呼吸症の簡易検査の現状　吉川　京子
〔研修会参加報告〕北日本支部遺伝子染色体部門研修会に参加して　吉沼　美幸
超音波検査セミナー2015に参加して　根本　一平
血液部門実技研修会に参加して　林田公美子
病理細胞診部門研修会に参加して　池田　友美
一般検査部門研修会実技研修会に参加して　皆川　萌美
下越支部研修会に参加して　松永　梨沙
新潟支部研修会に参加して　伊藤　慶子

中越支部フォーラムに参加して　松尾　　洸
第90回新潟県臨床検査学会に参加して　森田　祐貴
第90回新潟県臨床検査学会に参加して　松田　佳代
第90回新潟県臨床検査学会に参加して　小田　浩大
〔公益活動参加報告〕 ピンクリボンホリデーに参加して　西脇笑美子
糖尿病を知るつどい～に参加して　長谷川一稀
すこやかともしびまつりに参加して　寺尾　勇祐
新潟市民健康福祉まつりに参加して　三原　早貴
〔弔辞〕 黒崎和広さんを偲んで　横山　修市
〔施設紹介〕 あがの市民病院　岩崎　健志
〔ペンリレー〕 津川　志保
〔検査技師として～私の奮闘記～〕 西田　陽子
藤井　真也
高橋　秋菜
光野　駿紀
〔会報〕
平成27年度第３回理事会議事録
平成27年度10月常任理事会議事録
新入会員紹介
会員消息
技師会日誌
〔行事予定〕

２）新臨技ニュース　池上　喜久夫

理事会議事要旨，組織活動，研修会案内，求人情報など速報性・実用性のある情報を掲載してきた。また掲載情報の正確性・即時性を考慮し、可能な範囲で早く各施設に届くように努めてきた。また、広く会員に読まれるようレイアウトを工夫した。発行は理事会終了後の月１回とした。

３）新臨技ホームページ　近藤　善仁

新臨技ホームページは案内・各支部活動・各研究班活動の内容がリアルタイムに閲覧でき好評である。本年度は検査研究部門のページをリニューアルし、各部門（分野）ごとに詳細な情報を発信することが可能となった。また、会員専用ページを設け第90回県学会の抄録を web 抄録として公開し、精度管理事業の一部報告も web を利用して行った。

来年度に開催される第５回日臨技北日本支部学会の公式サイトを構築し公開した。

【主要行動報告】

１．北里大学保健衛生専門学院入学式に吉原副会長が出席（４月８日）
２．新潟医療技術専門学校入学式に桑原副会長が出席（４月９日）
３．４月常任理事会（４月11日）
４．日臨技災害対策委員会に坂西副会長出席（４月12日）
５．東臨技代表者会議へ渡邊会長、吉原副会長出席（４月18日）
６．日臨技　臨床化学教本編集部会　免疫教本編集部会に坂西副会長出席（４月18日）

７．日臨技　呼吸器分野教本編集部会に坂西副会長出席（４月25日）
８．第１回表彰委員会開催（５月８日）
９．第１回学術部会議開催（５月９日）
10. 篠川至賞選考委会へ渡邊会長、吉原副会長、桑原副会長、小柳事務局長出席（５月９日）
11. 第64回日本医学検査学会へ渡邊会長出席（５月15～16日）
12. 技師会監査報告（５月21日）
13. 日臨技総会　日臨技連盟総会に坂西副会長出席（５月23日）
14. 第９回臨床セミナー並びに通常総会（５月30日）
15. 第１回理事会（５月30日）
16. 北日本支部幹事会へ渡邊会長 , 吉原理事 , 桑原理事 , 坂西理事 , 小柳理事 , 阿部理事出席（６月６日）
17. 第２回理事会６月13日
18. 新潟県細胞検査士会定例総会へ桑原副会長出席（６月20日）
19. 新潟県健康づくり財団第11回定時評議会へ渡邊会長出席（６月24日）
20. 会誌編集委員会開催（６月24日）
21. 第１回精度管理員会開催（７月６日）
22. 日臨技連盟会議（東京都）へ坂西副会長出席（７月11日）
23. ７月常任理事会（７月11日）
24. 新潟はっぴー乳ライフ実行委員会へ小柳事務局長出席（７月14日）
25. 第１回精度管理協議会に坂西副会長、高口理事出席（７月17日）
26. 県学会事前打ち合せ会議開催（８月８日）
27. 県学会会場打合せ（朱鷺メッセ）に佐藤理事、小柳事務局長出席（８月19日）
28. 健康寿命延伸にかかる多職種協働推進委員会へ桑原副会長出席（８月27日）
29. 検査と健康展の会場打合せ（イオン新潟南）に佐藤理事出席（９月２日）
30. 第３回理事会（９月６日）
31. 新潟はっぴー乳ライフ実行委員会へ佐藤理事出席（９月８日）
32. 日臨技連盟常任執行委員会に坂西副会長出席（９月11日）
33. 第91回新潟県臨床検査センター協議会へ坂西副会長出席（９月12日）
34. 第２回編集員委員会開催（９月17日）
35. 日臨技災害対策委員会に坂西副会長出席（９月26日）
36. 第32回がん征圧新潟県大会へ桑原副会長出席（10月２日）
37. 10月常任理事会（10月３日）
38. 新潟県学会準備に小柳事務局長、佐藤理事出務（10月８日）
39. 第90回新潟県臨床検査学会（10月12日）
40. 平成27年度北日本支部内連絡会議へ渡邊会長出席（10月17日　）
41. 第４回北日本支部学会（北海道）へ渡邊会長、桑原副会長、坂西副会長、池上事務局次長、山川理事、近藤理事視察（10月17．18日）
42. ピンクリボンホリデーに小柳事務局長、加藤理事、佐藤理事参加（10月18日）
43. 第２回精度管理委員会（10月22日）
44. 地域ニューリーダー育成研修会に寺島理事出席（10月24．25日）
45. 新潟県作業療法士会設立30周年式典へ渡邊会長出席（10月25日）
46. 第３回精度管理委員会（10月25日）
47. 検査と健康展の打合せに佐藤理事出席（10月30日）

48. 平成27年度新潟県医師会設立記念大会へ渡邊会長出席（10月31日）
49. 第４回理事会（11月15日）
50. 第２回新潟栄養・食生活学会役員会に吉原副会長出席（11月18日）
51. 第４回精度管理委員会（11月20日）
52. 故黒崎和広技師の通夜式に吉原副会長、桑原副会長、坂西副会長、石田理事参列（11月22日）
53. 検査と健康展開催（11月28日）
54. 編集会議開催（12月17日）
55. 第５回精度管理委員会（12月19日）
56. 第５回理事会（12月19日）
57. 北日本学会についてコンベンション協会へ池上事務局次長打合せ（１月５日）
58. 検査説明相談ができる臨床検査技師育成講習会開催（１月09～10日）
59. 先駆的チーム医療実践講習会へ寺島理事参加（１月10日）
60. 関連団体へ新年挨拶回り（１月21日）
61. 日臨技臨時総会へ坂西副会長出席（１月23日）
62. １月常任理事会（１月23日）
63. 日臨技出版 WG に坂西副会長出席（１月23日）
64. 精度管理協議会に坂西副会長、髙口理事出席（１月27日）
65. 日臨技災害対策検討委員会に坂西副会長出席（２月７日）
66. 第６回理事会（２月20日）
67. 日臨技北日本支部幹事会に渡邊会長出席（２月26日）
68. 新潟支部総会に渡邊会長出席（２月27日）
69. 中越支部総会に吉原副会長出席（２月27日）
70. 新潟県健康づくり財団第12回臨時評議員会に渡邊会長出席（３月１日）
71. 下越支部総会に吉原副会長出席（３月５日）
72. 佐渡支部総会に桑原副会長出席（３月５日）
73. 新潟医療技術専門学校卒業式に桑原副会長出席（３月９日）
74. 新潟医療福祉大学卒業式に渡邊会長出席（３月10日）
75. 北里大学保健衛生専門学院卒業式に坂西副会長出席（３月16日）
76. 新潟大学医学部保健学科卒業式に渡邊会長出席（３月23日）
77. ３月常任理事会（３月26日）